



日進北小だより

令和3年11月1日 第7号

電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標:

心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する
～日本一 すてきなあいさつ 日北っ子～



「修学旅行を振り返って」

校長 平塚 信也

修学旅行に行ってきました。残念ながら参加できなかった児童もいましたが、子どもたちのはじけるような笑顔が見られ大変うれしかったです。他学年の校外学習も徐々に実施しています。運動会も実施します。少し寒くなりますが、楽しい思い出を作りたいと思います。

修学旅行は10月の6日（水）7日（木）でしたから8日（金）は普段通りに登校でした。私は疲れてしまい集中が難しい一日となってしまいました。子どもたちも「疲れているだろうな」と考えながら6年生の教室を覗いていると、あるクラスで「修学旅行をふりかえろう」という活動を行っていました。教室に入り議論を聞くうちにとてもうれしくなってしまう、最後まで参観させてもらいました。

後で担任に取材したところ、まず修学旅行の最中に上手に行動できていたところ、課題が残ったところ（もちろん一人ひとり違います。例えば挨拶ができたとか、時間が守れなかったなど。）を出し合い、多くの児童が課題としたことを黒板に書き出しました。次に今後の学校生活で課題を克服していくためにはどうするかを話し合いました。方法として「日直が毎朝たてる今日のめあてにしたら良いのではないか」との案が出され、ほぼ決まりかけていました。その時、「毎日の目標にするとその目標だけになってしまい、他の課題への意識が薄れてしまうのではないか。学級目標のようにこれからの学校生活で全ての課題を毎日目にできるスローガンを作った方が良いのではないか。」と意見が出されました。また、「課題を列挙しておいて、今日自分はできたかどうかを毎日個人が振り返ったらどうだろうか。」などのアイデアも出されました。私が入ったときはちょうどそのような意見が出ていたときでした。一旦結論が決まりかけていたときに出された意見がきっかけとなり、話し合いは活発になっていきました。決まりそうになったことにでも、納得できないと考え発言した事で、それぞれの児童が本当にそれでよいのか考え始め、話し合いが深まっていったのだと考えます。意見を出した児童に対して説得を試みる意見を出す児童、話し合いの時間には制限があるのだから、決まりかけた案に折り合いをつけたらどうかと提案する児童など多くの発言がありました。司会は全員が話し合いに参加できるようにわかりやすくまとめようと努力していました。私は一生懸命話し合っている姿をみてうれしくなりました。時間内では終わらずに話し合いは続き、結局、様々な意見をとり入れながら毎日目標を挙げていく最初の形に決定したようです。同じ結果でも議論を尽くして決定したことに価値があります。担任の話では修学旅行で課題となった挨拶や返事、友達の良いところを見つけるなどは修学旅行後はかなり意識して生活できているとの事でした。

今回の衆議院選挙の若者の投票率はどうでしょうか。さいたま市でも主権者教育を進めています。6年生の心の中にも「主権者」としての自覚を芽生えさせ、「投票に行っても何も変わらない」と諦めるのではなく、「自分達の手で日本を変えることができる」と考える若者として育てたいと思います。小学生のときに、思ったこと、考えたことを発言し、しっかりと話し合っ自分達で決定していく機会をたくさん経験させたいと考えています。